Vol.15　X7 コードの構造を確認してみる　～その 1～

では、vol.15、始めていきましょう。

XM7、Xm7 と続き、今回は X7 の構造とアルペジオを学んでいきます。

X7 は、ドミナント 7th コードとして、トーナル・センターに対して 5 度のコードとして出てきたり、通常のブルースでは、出てくるコード全てがこの形態だったりと、使用頻度はかなり高くなっています。

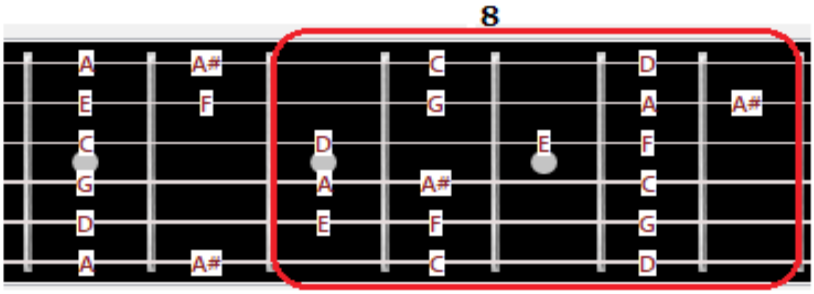
先にやってきた二つのコードもそうですが、この辺りの構造が指板上でパッと見えると、プレイの反応速度が変わって来るでしょう。

では、譜例ですが、トニックは C 音、基準にするスケールは C ミクソリディアン、コードとしては C7 を想定したものになっています。

C7 の構成は C(root)、E(M3rd)、G(P5th)、B ♭(m7th)ですね。

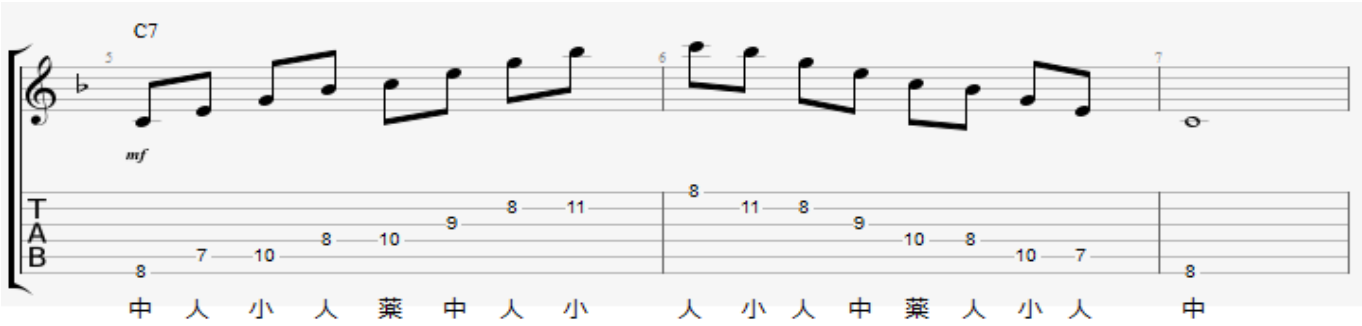
XM7 とは 7 度が、Xm7 とは 3 度が違う事を念頭において取り組んでみて下さい。

それでは、ポジションとしてはこの周辺で、いつもの様に 6 弦ルートからやっていきましょう。



(※A♯は B ♭に読みかえて下さい)

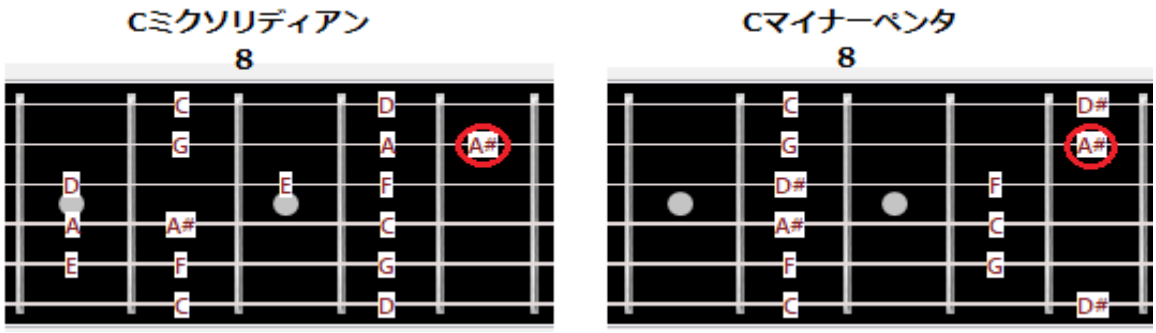
譜例 1



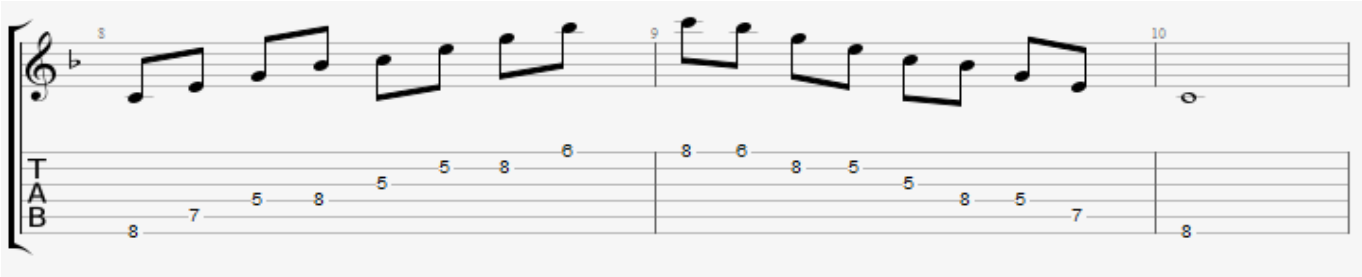
Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

こちらは上の赤枠内のポジションですね。

ブルースなどでは、X7 コードの上で、マイナーペンタ的な弾き方をする事がありますが、このポジションの 2 弦に m7th が来ることを理解すると、両者の構造が把握しやすくなるでしょう。(※もちろん他の音を基準にしても構いません)



譜例 2



こちらはヘッド側に進んだ弾き方です。

これもどちらかと言えば、マイナー 7th の時と同じ様に 5 弦ルートのポジションと組み合わせて見た方が使いやすいかもしれません。

と、言う事で、今回は以上になります。

XM7、Xm7、X7 の 3 種を弾き比べて、構造、音の配置が指板上でどの様に変化しているのかを確認しておきましょう。

次回に続きます。

ありがとうございました。

大沼

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved